C—17　経営学と家政学
—大熊信行教授の批判に答えて—

愛知学芸大　　青木　　茂

1.　本報告は朝日ジャーナル昭和三十八年一月二十日号所収，大熊信行教授の論稿「家の再発見」のなかにおける家政学批判に答えて家政学における対象論と方法論を家庭経営という立場においてとらえ，その内容を明らかにすることによって，従来家政学に対して持たれていた偏見と誤謬を正さんとすることを目的とする。

2.　家庭経営を単に家庭の営みといったような常識的な内容としてとらえずに，家庭経営の組織，すなわち家庭という経営体が他の経営体とどの点において同じであり，どの点において異るかを経済・経営・家計の相互関係から考察し，そこから家庭経営学の対象と方法を明らかにし，学的体系の確立化に進む。更に進んでそれと家政学との相互関係に言及する。

3.　家庭を経営とみる立場はあっても，それを，更に

掘り下げて，「経営体」として考察し，その学的立体像を設定しようという観点は，従来あまりなかったし，大熊氏の所論もこの視点に欠けている。経営体という視点に立てば家庭とは労働力ならぬ生命力の再生産を目的とし，物心両生活を共有する，人間協同の血縁的組織体という認識に達する。かくて家庭経営学は，この様な家庭経営体を認識対象として，生命力再生産に対する合理性を整序原理として成立する学問でありそれは即ち「家政学」でもある。